

日中友好協会・『研究 中国』刊行委員会 第4回中国問題懇談会中央大学及川教授 「習近平思想を読み解く」に参加して

犬飼 繁

2月24日(土)上記の講演会にオンラインで参加しました。

2022年の11月頃に中国で広がった白紙運動はゼロコロナ政策に悲鳴を上げた中国民衆の声が、ついにゼロコロナ政策を終わらせるという成果を上げました。中国民衆はある意味成功体験を得たのではないのでしょうか。

3月10日の毎日新聞に、「四川省西部のチベット族自治州で、ダム建設計画撤廃を求めるチベット族住民ら約300人が地元政府前で抗議活動を行った。ダム建設で2000人が強制移住させられ、6つのチベット寺院が失われることに反発したという。」という記事が掲載された。いま中国では、各地でこうした民衆の抗議活動が頻発しているという。習近平政権はこれにどう対応していくのだろうか。

さて、習近平政権の統治理念はどのようなものであろうか。2021年は中国共産党創立100年に当たっており、この年までに「小康社会(ややゆとりのある社会)」を全面的に完成させるとしており、2021年7月1日、中国共産党設立100周年記念大会で習近平は「我々は第一の百年の奮闘目標を実現し、中華の大地で小康社会を全面的に完成させ、歴史的な絶対的貧困問題を解決した。」と高らかに宣言している。

また、中華人民共和国成立から100年の2049年までに、「中国式現代化」によって、「共同富裕(貧富の格差を縮小して社会全体が豊かになること)」を実現し、「社会主義現代化強国」を建設するとも言っている。つまりみんなが豊かな社会を実現することこそが、習近平政権ひいては中国共産党の独裁を正当化する根拠ということのようだ。

「中国の夢」=中華民族の偉大なる復興ということも語られる。この基本的な内容は「国家の富強、民族の振興、人民の幸福」を実現することである。2012年第18回党大会から現在まで、習近平政権が目指す「価値観」は「社会主義の核心的価値観」と呼ばれ、国家の建設目標としての「富強、民主、文明、和諧(調和)」、社会の構築理念としての「自由、平等、公正、法治」、国民の道德規範としての「愛国、敬業(勤勉)、誠信、友善(友好)」が挙げられている。私は2016年に洛陽を訪問した時、右上の写真を目撃した。このように民衆の目に触れるようにすることで、徹底を図ろうとしたのだろうか?正直プロパガンダではないかとも感じた。

2017年の第19回党大会では「2020年から2035年までに『社会主義現代化』を基本的

に、2035年から今世紀半ば、つまり建国100周年までに『社会主義現代化強国』の建設を全面的に実現する。」と宣言し、2022年第20回党大会の習近平報告では「社会主義現代化強国の全面的完成という二つ目の百周年の奮闘目標を実現し、中国式現代化をもって中華民族の偉大なる復興を全面的に推進する。」とも述べている。1840年のアヘン戦争以来、列強の侵略に苦しめられた中国が、今世界でも一・二を争う経済大国となった自負がこう言わせるのだろうか。中華民族の偉大なる復興の「中華民族」には55の少数民族は入るのだろうか、気になるところである。

習近平政権が重視する「三感」(獲得感、幸福感、安全感)というのがある。2021年の中国共産党創立100年の重要文書、「歴史決議」には「人民の獲得感、幸福感、安全感(安心感)がいつそう満たされ、いつそう保障され、いつそう持続するようになければならない。」と強調され、「人民が安全感(安心感)を得ることが重要だが、党が指導して保障することで、習近平政権の「安全」が確保される。」とある。これが習近平政権の本音ではない



『台湾有事を起こさせないために』に参加して 小川涼子

3月9日に表記のシンポジウムがあり、参加した。

支部長が岡山支部から参加費の1000円を出してくれると言ったから視聴したけど、自分で出さなきゃいけないかったら、絶対参加していなかったと思う。

シンポジウムは予想していたけども、小難しい話ばかりだった。大西先生がちょいちょいまとめて話してくれてたけれども、それでもわかりにくかった。

ところで、ここ数年のうちに、台湾グルメが随分と身近になって、岡山でも台湾カステラの専門店ができたり、中国語の学習テキストを買いに書店に行ったら、台湾華語のテキストの品ぞろえが急に多くなったりしている。こういうのは、ただ単に若い子の台湾への関心が商品として扱われるのと重なっただけなのだろうか、ふと考えた。

1018

2024/3/15

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rizhongyouthao.jinaa.net>
 メールアドレス
rizhongyouthaoxiehuiokayama@yahoo.co.jp



台湾有事は日本の存立危機事態か？

—台湾有事と日本の軍事法制— 真田紀子

標記の大変刺激的なタイトルにひかれて、研究会を聞きに行きました。

2月24日(土)岡西公民館で、岡山15年戦争資料センターの2月研究会として企画されたものです。講師は中富公一さん(広島修道大学教授)です。

安倍政権が着々と戦争のできる国にするために、有事法制を整えていく過程がパワーポイントにより映し出されます。教育基本法の改正に始まり、防衛庁から防衛省へ、特定秘密保護法、新武力事態法、重要影響事態安全確保法等々。

当日資料が届いていなかったのも、後で参加者にメールで送付されてきた資料を印刷して再度確認しました。こんなに周到に用意されていたのかと驚きました。

重要影響事態安全確保法では、「我が国周辺の地域」という地理的概念を外し、「そのまま放置すれば我が国に対する直接の武力攻撃に至るおそれのある事態等我が国の平和及び安全に重要な影響を与える事態」という解釈に変えている。

日米安全保障条約第5条には、「条約国は、日本国の施政の下にある領域における、いづれか一方に対する武力攻撃が、自国の平和及び安全を危うくするものであることを認め、自国の憲法上の規定及び手続に従って共通の危険に対処するように行動することを宣言する」とある。

今の情勢で、台湾有事が起こった場合、日本がどう対処で

范曾美術館を訪問して

小川涼子

2月16日(金)に中国語講座の3人で范曾美術館へ行きました。范曾美術館は一年のうち、西大寺会陽のあるころの三日間だけ開館する美術館です。

范曾氏は中国人の画家で、現代中国画壇、人物画の鬼才として内外に名声を馳せている人だそうです。かつこいひげを生やしたおじさまや、乳を出した爺さん、歯のかけたおっちゃんなどが、たくさんありました。女媧とかきれいなおねえさんも描いてありました。

范曾美術館には范曾氏の絵だけでなく、中国の古くて大きくて高そうな大皿や大壺が飾られていました。一緒に行った劉さんが「これ本物？ 本物？」と小声で聞いてくるので、「本物だと思う」と答えておきました。中国だと価値のある陶器などは、こういった小さな美術館で本物はないらしいです。

また女性画の胸元が少しばかりはだけているのを見て、「これはちょっとダメ」(性的に過激)、と言っていました。数メートル先に飾られていた爺さんの絵は乳も腹も丸出しでした。

美術館に行ったのが金曜日で館内がすいていたので、三階の八仙図は説明文の誰が絵の誰なのかを三人で話しながらゆっくりと鑑賞できました。

帰りに西大寺観音院にお参りに行きました。会陽の準備が着々と進められていました。そこで毎月21日に写経会をやっているという情報を得たので、劉さんと、太極拳教室の1人と私の合わせて3人で、水曜の岡山ふれあいセンターでの太極拳教室のあとに行ってきました。劉さんも私も写経は初めてで、用意されていたなぞり書きすればいいだけの写経にも悪戦苦闘しました。

范曾氏は絵の中に書き入れられた文字は、とても達筆だったのですが、字の上手い人はなぞり書きも上手いのかなあ、などと考えました。

中国残留孤児学習会に参加して

小川涼子

2月18日(日)14時～岡輝公民館で「なぜ中国残留孤児は生まれたか」を勉強してきた。参加者は5人で、近代史研究者の青木康嘉氏が先生だ。今回が3回目でテーマは～山中晴子の「満州」と「日本」～だ。山中晴子さんといえば、時々なんらかのイベントで見かけるあの人だー…というくらい感じの人だ。見知ってはいるけどよくは知らない人だ。

勉強会はレジュメを読みながら、時々青木先生が問題をだして、誰かしらが当てられて答える、という形で進んだ。



時代背景に関わる問題は全部、私が当てられたんだけど、9問中7問正解だったので、いいセンいったと思う。他の人たちもいろいろな問題に答えてた。犬飼さんに難しい問題出される……！と心の中で叫んでいた。

内容については、山中晴子さんのおじいさんの話から始まって、息子さんの話まで続いた。文字だけで家族関係を追っているとわけがわからなくなったので、レジュメの裏に家系図を書いて整理した。時代背景を合わせて書いておいたら、もっとわかりやすくなってたかもしれない。

勉強会を重ねるにつれて、時代の大きな出来事や、残留孤児に対する行政の支援などについて、さっぱりわかってないことがわかってきたので、もう少しそのあたりを勉強したら、もっとよく理解できるのだろうなあ……と思いました。

次回の新聞発送作業は
3月28日(木)午前10時半か
ら民主会館で行います。
前回お手伝いくださった方
です。

青木裕
池田
犬飼
真田
竹内